

底魚資源調査[※]

武田 保幸・阪本 俊雄

目 的

昭和61年度南西海区底魚資源調査要綱に基づく。

調査内容及び方法

1. 田辺湾小型機船底曳網で漁獲される小型エビ類・イカ類の種組成ならびに体長組成を調査するため、1986年4～12月に月1回田辺漁協所属の当業船に便乗し小型エビ類全漁獲物中から約2 kgの採集を行なった。イカ類、テッポウエビ類等は船上で揚網後の選別時に適当数を採集した。
2. 同漁協の魚種別・月別漁獲量と努力量(出漁隻数)は田辺漁協の水揚伝票集計結果から整理した。

結 果

標本の種組成を資料16に整理し、エビ類のそれについては1974年以降本年までのものを図1に示した。黒潮変動による沿岸域の低温激化は1982年以降熾烈となり、この年を境としてミナミアカエビの潰滅

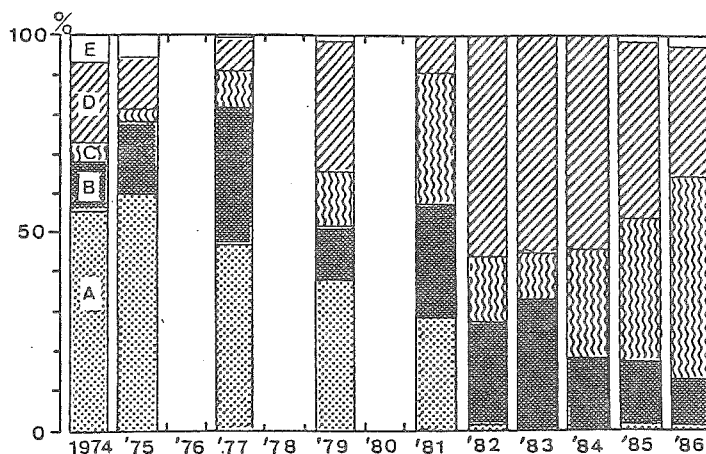


図1 田辺湾小型エビ類の種組成

A: ミナミアカエビ B: アカエビ C: トラエビ
D: サルエビ E: その他

的減少とそれに符節したサルエビの増加は対照的である。最近ではトラエビが増加しているが、これも最近の冬春期低温、夏秋期温暖化の海況によるものであろう。

湾内のイカ類は、ミミイカとヒメコウイカがわずかに入網している程度で、紀伊水道で饒産するジンドウイカ、ヤリイカ、コウイカなどの分布は極めて少ないとみられる。

サルエビ、トラエビ、アカエビ、ミナミアカエビの体長測定結果を資料17に整理し、これより体長組成図をサルエビについては図2、3に、トラエビは図4、5に、アカエビは図6、7にそれぞれ示

※1 漁業資源調査費による。昭和61年度南西海区ブロック水産資源調査担当者会議において概要を報告した。

※2 1974、'75年の組成は阪本・林(1977, 日水誌43, 1259-1268)の調査から作成した。

した。いずれの種も9月には体長の小さい新エビが加入し、8月まで獲られていた体長の大きいものの出現は以後、トラエビにおいて若干みられるものの、その他のエビではみられなくなっている。これらのことなどからもわかるように上記いずれの種も産卵期は晩春～夏期と推定される。

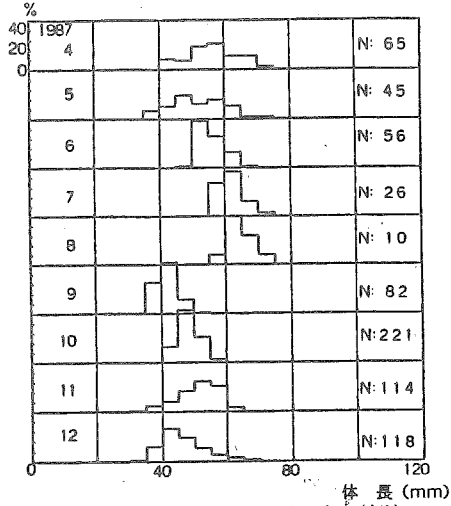


図2 サルエビ体長組成 (雄)

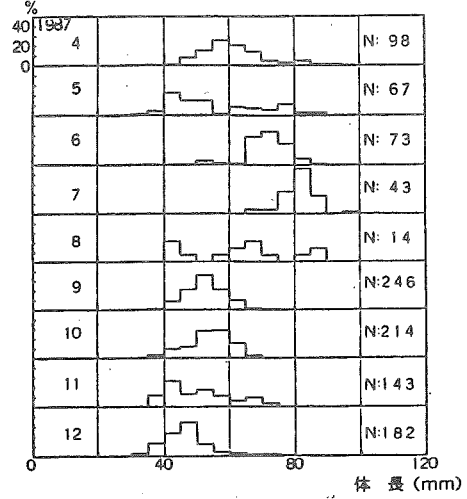


図3 サルエビ体長組成 (雌)

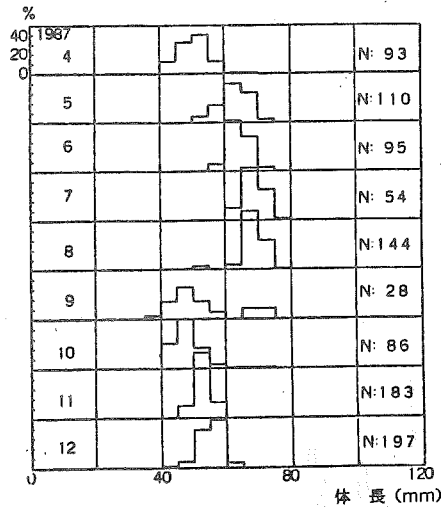


図4 トラエビ体長組成 (雄)

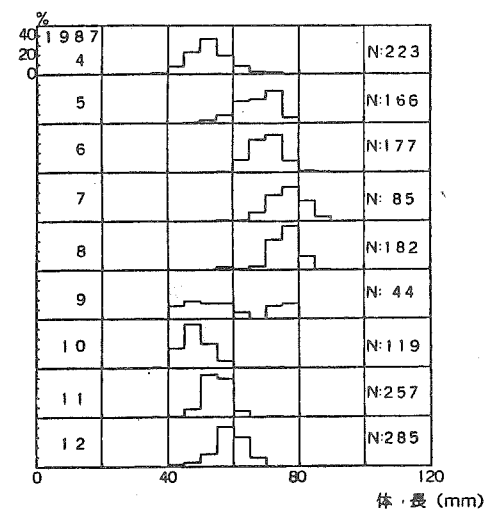


図5 トラエビ体長組成 (雌)

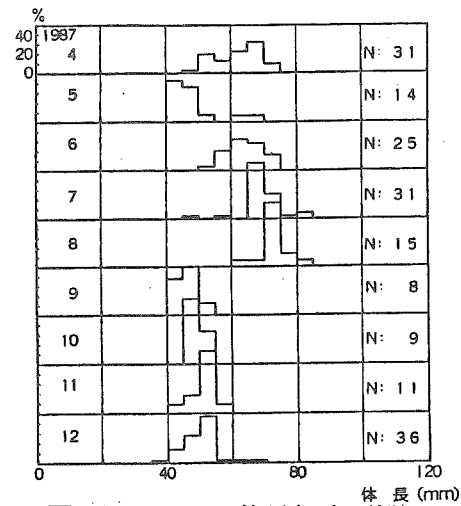


図6 アカエビ体長組成 (雄)

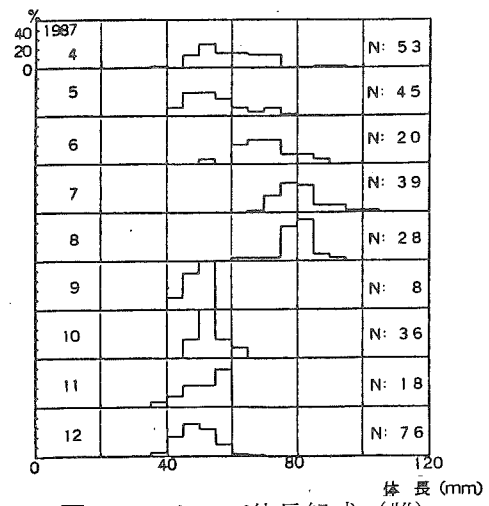


図7 アカエビ体長組成 (雌)